

【3-2】日常生活支え合い実践事業

自治会型デイホーム利用促進事業 (福井市)

基礎情報

実施地域	宝永地区
実施主体	宝永地区社会福祉協議会
所在地	福井市宝永2-6-15 大黒様方
代表者	松成 嘉實

平成23年度の事業概要

利用者の身体的困難を緩和するために、備品を購入して利用促進に努める。
宝永地区では、難聴が進んだために対話が困難になり、利用をためらう方のために、会話を楽しむ手段として簡単筆談器を購入した。

現在の活動状況

デイホームを開始して13年経過した。ひと月5回開催し、地区内の公民館やお寺等を会場に多くの高齢者が楽しく参加している。

<概要>

地区内の公民館、集落センター等の集まりやすい場所を会場とし、ひと月5回開催し、概ね65歳以上の高齢者が利用する。転倒骨折予防体操、認知症予防メニュー、レクリエーションを行いながら、介護予防を行っている。23年度は延べ人数で654人が利用し、難聴の利用者に使用する。

<維持管理>

地区社協備品として取扱い、専任職員が管理。

<利用状況>

毎回15人～20人ほどの利用があり、言葉が聞き取りにくい利用者がある場合に使用する。

事業の実績、成果

毎回15～20名ほどの利用がある。
認知症予防や転倒骨折予防体操を行いながら、地区社協関係者が協力者となり、見守り活動にもつながっている。

工夫した点

難聴で会話がやや難しい高齢者でも、簡単に筆談することができる。閉じこもり防止にもなり、会話を楽しむことができるように購入した。

事業の財源

平成23年度の地域支え合い体制づくり補助金で、利用高齢者の身体的困難を緩和するための備品を購入。自治会型デイホームは、市社協補助金、地区社協自主財源、利用者負担金、寄付金で運営されている。

課題

筆談以外にも、筆談器に慣れてもらう意味も兼ねて、今後は脳トレやゲームにも活用していきたい。

今後の目標

多くの前期高齢者にも利用してもらい、介護予防の大切さを伝えていきたい。また、今後も地域のつながりや見守り活動につなげていく。

団体からのメッセージ

宝永地区は年々、参加人数が増えてます。これからも状況に応じて簡単筆談器を活用し、地域でコミュニケーションをとりながら、多くの方に参加してもらいたいと思います。